

2021 年度関西女子学生バスケットボールリーグ戦 反省事項

反省点

1. 全体についての反省

- ・コロナ感染対策により、リーグ戦の延期が続き秋季トーナメントが開催中止となつたが、各大学からは秋季トーナメント開催希望が多かったため、試合数を増やすためにも前向きに開催準備を進めるべきだった。
- ・役員へのパンフレット発送の際に、ID の送付が不十分だったため今後は封筒に入れるなど分かりやすくする。

2. コロナ感染防止対策の反省

- ・クーリングスペースの使用方法が試合会場によって異なっていたため、学連委員の認識を一致させる。また今後継続するのであれば、チームの周知も遅かったため試合 1 週間前にメール配信することや、代表者会議の際に説明していく。
- ・試合開始時間が遅れている場合にて、アップ開始時間が各チームにより異なっているため、感染防止対策として完全入れ替えをしてから、アップ開始とし平等性をたもつ。

3. 今後について

- ・各大会の表彰式は、前日または最終試合が開始される際にリハーサルをし、スムーズに行うことができるようにしていく。
- ・学連委員、運営の人数不足が今後の課題。各部試合会場の最低必要人数として下記の学連員数を設定して体制をとる。

また各会場にて、各部一人は配置されているようにする。

1 部→最低 13 人

2 部→最低 8 人

3.4.5 部→最低 7 人